

Special Exhibition
Celebrating the Museum's 75th Anniversary

Maruyama Ōkyo

Opening up New Terrain in Japanese Painting

「写生」を超えて

円山応挙(1733-1795)は、「写生」にもとづく新しい画風によって、日本の絵画史に革命を起した画家です。そんな応挙の「写生画」は、超絶的かつ多彩なテクニックによって支えられています。「見る」と「描くこと」への挑戦。それにより、現実のかつてない絵画的再現、イリュージョンの生成が果たされるのです。

開館75周年記念特別展

円山応挙

2016年 11月3日(木・祝) — 12月18日(日)

【休館日】毎週月曜日

しかし近年、写生ないし写生画という言葉だけではとらえきれない応挙の多面性、作品世界のバックグラウンドが指摘されることも多くなっています。たとえば、応挙が中国の写実的な絵画を学んだことは間違いないかもしれませんが、画業の初期には同じ中国画でも文人画風への深い理解を示しました。一方、応挙の作品がもつ装飾性は、やはり中国の着色画を学習した成果であると同時に、日本のやまと絵、あるいは琳派に習う部分も多いと考えられます。応挙の先進的な絵画理論の一部が、若い頃に学んだ京都の狩野派に備わっていたことも見逃せません。すなわち応挙は、日本にもたらされた中国画を含めた、18世紀の京都における絵画をめぐる状況を十全にふまえて制作を行っているのです。

本展は、応挙の生涯を代表する作品の数々を、根津美術館の展示空間の中であらためて見つめ直すそうとするものです。あわせて、さまざまな可能性を秘めた若き日の作品、絵画学習の痕跡を濃厚にとどめた作品、そして鑑賞性にも優れた写生図をご覧いただけます。「写生」を大切にしながらも、それを超えて応挙が目指したものは何だったのかを探ります。

根津美術館
NEZUMUSEUM



応挙画の精華

応挙の画風は、それぞれの時期における造形的な試みを反映して、変化に富んでいます。斬新な美しさに満ちた作品の数々をご堪能ください。



重要文化財 藤花図屏風 円山応挙筆 6曲1双 紙本金地着色 日本・江戸時代 安永5年(1776) 根津美術館蔵
総金地に描きだされた藤。幹や枝は「付立て」という技法で一見ラフに描かれながら、コントロールされた墨の濃淡が立体感を表している。白と青、紫の絵具を重ね合わせた花房の表現は、まるで西歐の印象派のようである。

前期(11/3~11/27)展示



国宝 雪松図屏風 円山応挙筆 6曲1双 紙本墨画淡彩 日本・江戸時代 天明6年(1786)頃 三井記念美術館蔵
凜として立つ松。白く残された紙の地に松葉を描きこむことで、松に積もるふんわりとした雪の量感が醸しだされる。松の背後の金泥は陽光に満ちる大気を、画面下部に蒔かれた金の砂子は雪に反射する光を表現している。

後期(11/29~12/18)展示



重要文化財 雲龍図屏風 円山応挙筆 6曲1双 紙本墨画淡彩 日本・江戸時代 安永2年(1773) 個人蔵
つかめそうなほどの視覚的なボリューム、表皮の神秘的な生々しさが、架空の動物に圧倒的な存在感を与えている。墨のにじみや量しを駆使して描かれた雲が充満する画面は生温かく、息詰まるようである。

前期(11/3~11/27)展示



牡丹孔雀図 円山応挙筆
1幅 絹本着色
日本・江戸時代
安永5年(1776)
宮内庁三の丸尚蔵館蔵

孔雀の光沢のある羽の質感と首や胴の立体感が見事に表されている。華麗なイメージの中に、対象の生命感も備わっている。

後期(11/29~12/18)展示



秋野暁望図 円山応挙筆
1幅 絹本着色
日本・江戸時代
明和6年(1769)
個人蔵

藍色の霧の背後に秋草の群れが沈む夜明け前の情景。写生画を飛び越え、近代の日本画を先駆けている。

円山応挙

展示室1・2・5

開館75周年記念特別展

学習と写生の徴

応挙と名乗る前の若い頃はもとより、大成した後も、応挙は様々な絵画を学びました。一方、写生図は、応挙の「ものの見方」も教えてくれます。



ほてい なんてん ばしょうず
布袋・南天・芭蕉図
円山応挙筆
3幅 紙本墨画
日本・江戸時代
明和2～3年(1765～66)頃
個人蔵

応挙と名乗る以前、30歳代前半の作品。私淑した画家・渡辺始興などからの影響がうかがわれると同時に、後の画風の萌芽も見て取れる。

会期中巻替えあり



重要文化財 写生図巻 円山応挙筆 2巻のうち 紙本着色 日本・江戸時代 明和7年～安永元年(1770～72) 株式会社千總蔵
実物写生を清書した作品。数多い応挙の写生図のなかでも一際生彩に富む。応挙の優れた観察力と描写力が示されている。

難福図巻の世界

経典に説かれる七難と七福をリアルに描くことで、仏神への信仰心と善行をうながす目的で制作された、応挙の出世作といえる絵巻を紹介します。

会期中巻替えあり



上巻



下巻

重要文化財 七難七福図巻 円山応挙筆 3巻のうち 紙本着色 日本・江戸時代 明和5年(1768) 相国寺蔵

難福図巻とも呼ばれる。天災を描く上巻と、人災を描く中巻で難の図を構成し、下巻が福の図である。とくに中巻の凄惨な表現には目を覆いたくもなるが、人間と自然の諸相を描き尽くした、応挙の画業に重要な位置を占める作品。

前期(11月3日〔木・祝〕～11月27日〔日〕)と後期(11月29日〔火〕～12月18日〔日〕)で大幅な展示替えを行います。記載がない作品は全期間展示します。

その他の出品作品より

- 芭蕉童子図屏風 個人蔵 「可愛い子どもの絵にひそむ新機軸」 * 前期展示
- 雪中山水図屏風 相国寺蔵 「空中撮影を思わせる目もくらむ山水画」 * 後期展示
- **重要文化財** 雨竹風図屏風 圓光寺蔵 「伝統的な墨竹に鋭敏な自然観察の成果を加える」 * 前期展示
- 源氏四季図屏風 宮内庁三の丸尚蔵館蔵 「応挙のやまと絵屏風の代表作」 * 後期展示
- 木賊兔図 静岡県立美術館蔵 「ふわふわとした毛の感触が視覚から伝わってくる」 * 前期展示
- 老松鸚哥図 個人蔵 「若沖も描いた舶来の鳥を、若沖とは異なる表現で」 * 前期展示
- 四条河原夕涼図(眼鏡絵) 個人蔵 「修行時代の玩具絵にもうかがえる夕闇と光への関心」
- 西湖十景図 個人蔵 「応挙の山水画風成立のヒントが潜む」
- 写生雑録帖 個人蔵 「森羅万象を描きとどめたスケッチブック」

11月、茶席では茶壺の口の封を切り、この年の初夏に摘んだ新茶をいただくようになります。茶の湯の新しい一年の始まりです。



肩脱茶壺 銘長門
福建あるいは広東窯系 1口 施釉陶器
中国・元～明時代 14-16世紀 根津美術館蔵

口から肩まで釉薬が施されていない茶壺を「肩脱」と呼ぶ。粗雑な壺であるが、日本の茶人たちによって早くから賞翫されてきた。



国宝 布袋蔣摩訶問答図 因陀羅筆・楚石梵琦賛
1幅 紙本墨画 中国・元時代 14世紀
根津美術館蔵

禅僧・楚石梵琦の賛によると、図は布袋(弥勒)と蔣摩訶(釈迦)が問答する様子を描いたもの。一見稚拙な線描が特異な画風を示す。

茶人の正月

一口切り

展示室6 同時開催

秋の庭園

会期中、庭園の紅葉も見頃を迎えます。作品鑑賞と共に楽しみください。

庭園内の茶室「閑中庵・牛部屋」



関連 プログラム

講演会
事前申込制

「応挙が目指した絵画世界」
日時 11月5日(土) 午後2時～3時30分
講師 馬淵 美帆氏 (神戸市外国語大学 准教授)
会場 根津美術館 講堂
定員 130名

【申込方法】 当館ホームページの「イベント情報」の申込みフォームから、または往復はがき(1参加者につき1枚)に参加を希望される講演会名・住所・氏名(返信面にも)・電話番号を明記の上、〒107-0062 東京都港区南青山6-5-1 根津美術館講演会係宛にお送りください。先着順で定員になり次第締め切らせていただきます。

スライド
レクチャー
事前申込不要

11月12日(土)、11月19日(土)、11月25日(金)、12月2日(金)、12月9日(金)
講師 野口 剛 (当館 学芸課長) *展示内容についてスライドを用いて解説します。
会場 根津美術館 講堂
各回とも午後1時30分より45分間程度、開始の15分前より開場。各回定員130名(先着順)

※講演会、スライドレクチャーとも聴講は無料ですが入館料をお支払いください。

特別 催事

「現代茶人の茶席」
事前申込制 有料

11月19日(土) 林屋晴三氏 (東京国立博物館名誉館員)
11月25日(金) 青井忠四郎氏 (株式会社アトム 代表取締役)
12月4日(日) 櫻井 恵氏 (骨董・古美術月刊誌『目の眼』社主)
12月10日(土) 池田 巖氏 (漆芸作家)
※詳細は追ってホームページ、本催事チラシをご覧ください。

お得な 情報

「円山応挙」展限定
またどうぞ券

一般1100円 学生800円
会期中、展示替えがありますので、2回目以降ご来館いただくのにお得な割引入館券(またどうぞ券)を11/3-12/17にミュージアムショップで販売いたします。「円山応挙」展会期中ご入館いただいた翌日から「円山応挙」展会期最終日までご利用いただけます。

三館合同キャンペーン
「秋の三館
美をめぐる2016」

三井記念美術館 特別展
「松島 瑞巖寺と伊達正宗」(9/10 -11/13)
五島美術館 平安書道研究会800回記念特別展
「平安古筆の名品 — 飯島春敬の観た珠玉の作品から—」(10/22 -12/4)
根津美術館 開館75周年記念特別展
「円山応挙 —「写生」を超えて—」(11/3 -12/18)

※詳細は追って各館ホームページ、本キャンペーンチラシをご覧ください。

開催 概要

展覧会名
主催
開催期間
開館時間
休館日
入館料

開館75周年記念特別展 「円山応挙 —「写生」を超えて—」

根津美術館

2016年11月3日(木・祝)～12月18日(日)

午前10時～午後5時 [入館は午後4時30分まで]

毎週月曜日

一般1300円(1100円) 学生1000円(800円)

()内は20名以上の団体料金、中学生以下無料

前売券

一般1100円 学生800円 ※2016年9月15日(木)～10月23日(日)「中国陶磁勉強会」展開催期間中、根津美術館ミュージアムショップにて販売

アクセス

地下鉄銀座線・半蔵門線・千代田線(表参道) 駅下車A5出口(階段)より徒歩8分、B4出口(階段とエスカレーター)より徒歩10分、B3出口(エレベーターまたはエスカレーター)より徒歩10分

住所
お問合せ

〒107-0062 東京都港区南青山 6-5-1

TEL 03-3400-2536 (代表) <http://www.nezu-muse.or.jp>

次回展



染付山水樓閣文台大皿 日本・江戸時代 17世紀
根津美術館蔵 山本正之氏寄贈



色絵三果文礎花皿 日本・江戸時代 17-18世紀
根津美術館蔵 山本正之氏寄贈

コレクション展 染付誕生400年

2016年
1月7日(土)～2月19日(日)

日本で磁器生産が始まっておよそ400年。当館の山本コレクションで17世紀から19世紀までの肥前磁器を概観します

リリース・広報の お問合せ

担当：所、村岡、羽田 Tel. 03-3400-2538 (直) Fax. 03-3400-2436 E-mail. press@nezu-muse.or.jp